

## 龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置に関する基本方針

龍ヶ崎市教育委員会は、龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会からの答申を尊重しつつ、次のとおり基本方針を定める。

平成23年5月25日

龍ヶ崎市教育委員会

### 1 はじめに

全国的に少子化が進行する中、当市においても、児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでいます。市内では、19校のうち7つの小中学校で、平成23年度の子童生徒数がピーク時と比べて50%未満となっており、さらに平成24年度には、複式学級になることが予想される学校も出始めています。

小規模校には、少人数によるきめ細かな指導ができるという利点もありますが子どもたちが集団の中で、切磋琢磨する機会を持つことが難しくなり、多様なものの見方や考え方が育ちにくくなることが懸念されています。

加えて、核家族化の進行や地域での付き合いが疎遠になってきている昨今、子どもたちにとって様々な人との出会いや触れ合いは、益々重要になっていると考えられます。

こうした状況を踏まえ、龍ヶ崎市教育委員会では、市内小中学校の適正規模適正配置について、様々な角度から検討することを目的として、平成21年7月、学識経験者や小中学校の教職員、保護者、地域の代表者等から構成する「龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会」を設置し、平成23年2月に答申を受けました。

龍ヶ崎市教育委員会では、この答申を尊重しつつ、次代を担う子どもたちにとって望ましい教育環境の整備という観点から、市内小中学校の適正規模適正配置にかかる基本方針を定めて、その取り組みを進めていくこととしました。

### 2 小中学校の適正規模について

将来を見据えた理想的な学校規模は、小学校については、各学年ともにクラス替えによる交流が図られるよう1学年2学級（計12学級）以上、また、中学校については、すべての教科の担任が配置でき、かつ多様な教育活動ができるよう1学年3学級（計9学級）以上とします。

《参考：市内小中学校の学級数》

平成23年5月1日現在

小中学校の別	全学級数	学年の学級数	学校数
小学校 (全13校)	6学級	1学級	4校
	7学級～11学級	1学級～2学級	2校
	12学級以上	2学級以上	7校
中学校 (全6校)	8学級	2学級～3学級	2校
	9学級	3学級	1校
	12学級以上	4学級以上	3校

※ 学級数は、普通学級数を記載しています。

### 3 小中学校の適正配置について

龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会からの答申にもあるように、すでに市内には、すべての学年が単学級でクラス替えが出来なくなっており、かつ今後も児童数が徐々に減少すると考えられる小規模校4校（長戸小学校・北文間小学校・大宮小学校・川原代小学校）があります。また、長戸小学校については、平成24年度には、2学年と3学年が複式学級になることが予想されることから、まずは、これらの小学校4校を優先させて、その対応を検討することとします。

ただし、上記の小学校4校の地域には、歴史と伝統があり、学校はそれぞれの地域に深くかかわりを持ちながら、地域の方々に支えられ存在してきました。

また、子どもたちを様々な危険から守るということに関しても地域の方々の協力なしにはできないような社会的な状況もあります。

こうしたことから、龍ヶ崎市教育委員会では、他の自治体のように学校統合の目標年度や統合の方法を行政主導で決定するのではなく、保護者や地域の方々等と十分に協議を重ねていく中で、適正な学校配置の実現を目指すこととします。

### 4 適正配置の検討にかかる留意事項

- (1) 保護者や地域の方々等に対して、きめ細かな情報提供に努めるとともに、丁寧な意見聴取を行いながら進めることとします。
- (2) それぞれの学校に通う児童生徒の保護者や未就学児の保護者、学校教職員、地域の方々等で組織する専門委員会等を設置し、その中で合意形成を図るよう努めます。
- (3) 統合することになった場合には、近接校との統合だけでなく学区変更など、様々な視点から検討を行います。
- (4) 統合することになった場合には、統合後の児童の環境変化に配慮し、統合前に学校間の交流を行うなどして、児童相互の融和を図ります。

- (5) 統合により、遠距離通学となる児童については、スクールバス等の通学支援について、十分に検討を行います。
- (6) 統合を検討している際に、教育制度の改正などが行われた場合には、必要に応じて見直しを行います。
- (7) 平成27年度以降に、再度、龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会を立ち上げ、その時点に即した検討を行います。